

2020 年度コンピテンシー・マイルストーン到達度調査 報告書

2021 年 10 月 21 日

医学部 I R 室

1. 調査概要

1-1. 調査目的

本学医学部学生の学修成果（コンピテンシー・マイルストーン到達度）に関する実態を調査することを目的とした。

1-2. 調査項目

調査項目は、本学のコンピテンシー・マイルストーン（2 年次修了時、4 年次臨床実習開始前、卒業時）の各レベルの到達度について、学生が自己評価を行った。

1-3. 調査対象

2020 年度医学部 1～5 年生 593 名を対象とした。

1-4. 調査方法

4 年次においては、2020 年 10 月 9 日～20 日において、Web(AIDLE-K)により記名式の調査を実施した。2020 年度 1 年生、2 年生、3 年生、5 年生においては、2021 年 4 月 5 日～4 月 20 日において、Web(AIDLE-K)により記名式の調査を実施した。

1-5. 回答者数と回収率

2020 年度 1 年生から 5 年生まで 97 名が回答した。内訳は、1 年生が 25 名（回収率 19.5%）、2 年生が 28 名（回収率 23.0%）、3 年生が 18 名（回収率 15.7%）、4 年生が 22 名（回収率 18.5%）、5 年生 4 名（回収率 3.7%）であった。

2. 結果

コンピテンシー・マイルストーンは、2 年次レベル、4 年次臨床実習開始前レベルで設定されている。そこで、2 年次、4 年次において、レベル未達成の割合が 40%以上のものを抽出し、以下に示した。グラフのタイトルは卒業時コンピテンシーのそれぞれの項目とした。

<2 学年次>

IV. 診療技能

32. 心理・社会的状況を含め患者の病歴を正確に聴取できる。

33. 身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。
34. 診療録を SOAP 形式で、客観的、かつ簡潔に記載し、プロブレムリスト、鑑別診断を作成できる。
35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。
37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。

V. 地域社会への貢献について

44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。

<4 学年次>

I. プロフェッショナリズム

4. 倫理原則、法律に基づいて行動できる。
6. 自分の行為と決断を振り返り、次の行為と決断に活かすことができる。
8. 適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律的に継続できる。
9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。
10. 精神面、身体面で自己管理に努めることができる。
11. 医療チームの一員として協働し、効果的な役割を果たすことができる。
14. 安全な医療を提供するための基本原則を理解し、実践できる。

II. コミュニケーション

17. 患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会の心理・生活・文化的背景を適切に把握するための、支持的・共感的なコミュニケーションをとることができる。
18. 効果的な協働のために、相手に応じて適切な方法で情報の収集・集約・伝達を行うことができる。
19. 患者、家族と情報に基づいた意思決定の共有（インフォームド・シェアード・ディシジョン・メイキング）ができる。
20. 個人とだけでなく、集団、社会との適切なコミュニケーションをとることができる。
21. 様々な ICT (Information and Communication Technology) を適切に選択し、活用できる。

III. 医学の知識と科学的探究心

22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
24. 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。
25. 疾患の病態と症候を説明でき、その鑑別と診断を計画できる。
26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。
28. 疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。

29. 医学・医療と社会との関連，社会の医療問題を説明できる。
30. 新しい医学・医療情報を探索し，医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。
31. 医学，医療における客観的根拠を適切に探索し，EBM を実践できる。

IV. 診療技能

34. 診療録を SOAP 形式で，客観的，かつ簡潔に記載し，プロブレムリスト，鑑別診断を作成できる。
35. 適切な検査を選択し，結果を正しく解釈できる。
36. 時，相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。
37. 患者と家族に対し，エビデンスに基づいて，適切に治療法・予後を説明できる。
38. 感染管理を考慮した診療ができる。
39. プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。
40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション，介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

V. 地域社会への貢献

42. 地域の医療状況，社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。
43. 医療計画，地域医療構想について説明できる。
44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。
45. 社会保障制度を理解し，地域包括ケアの実践に参加できる。
46. 災害における被災者や，社会的弱者の現状について理解し，医療に関わるボランティア活動に参加できる。
47. 国際社会の健康問題を把握，説明することができ，可能な範囲でその問題に対処できる。

3. まとめ

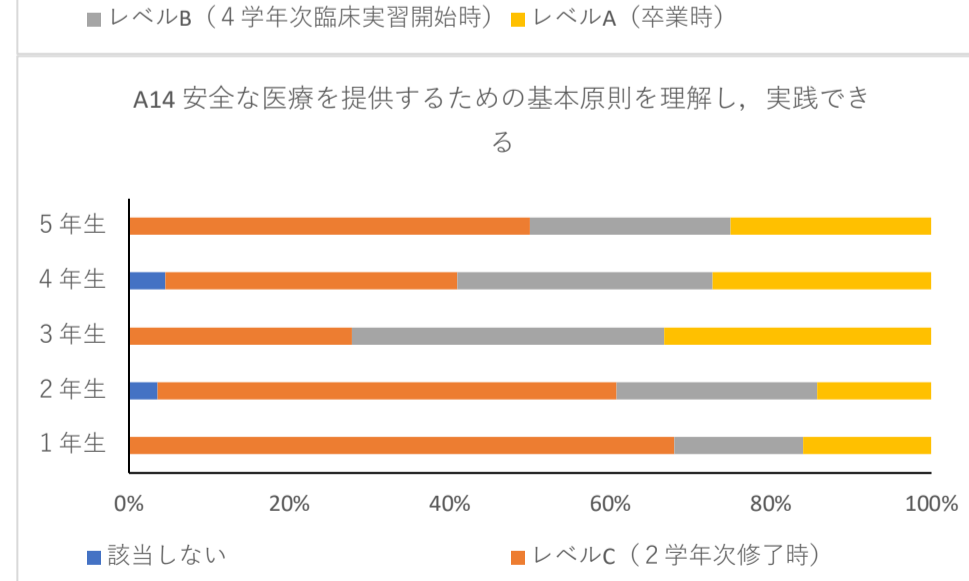
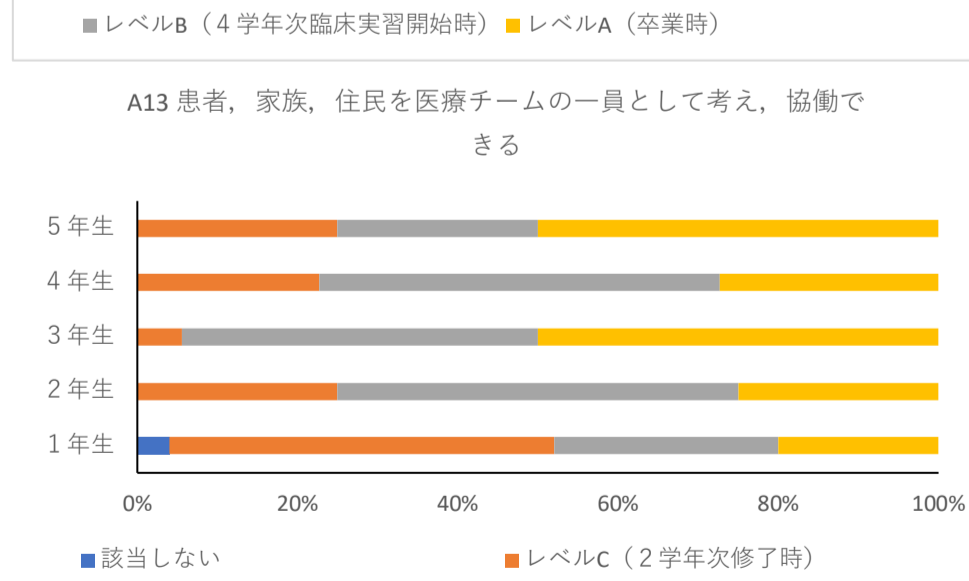
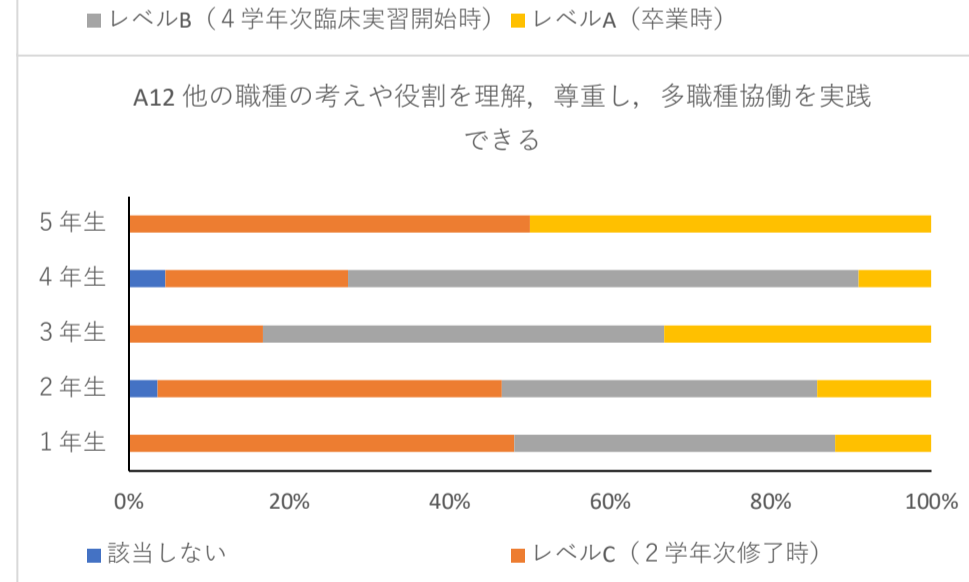
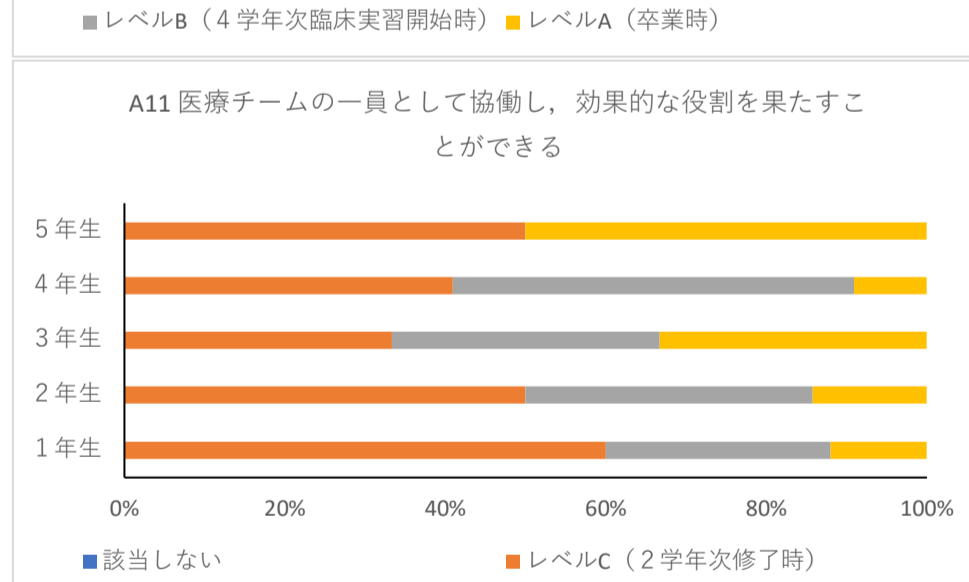
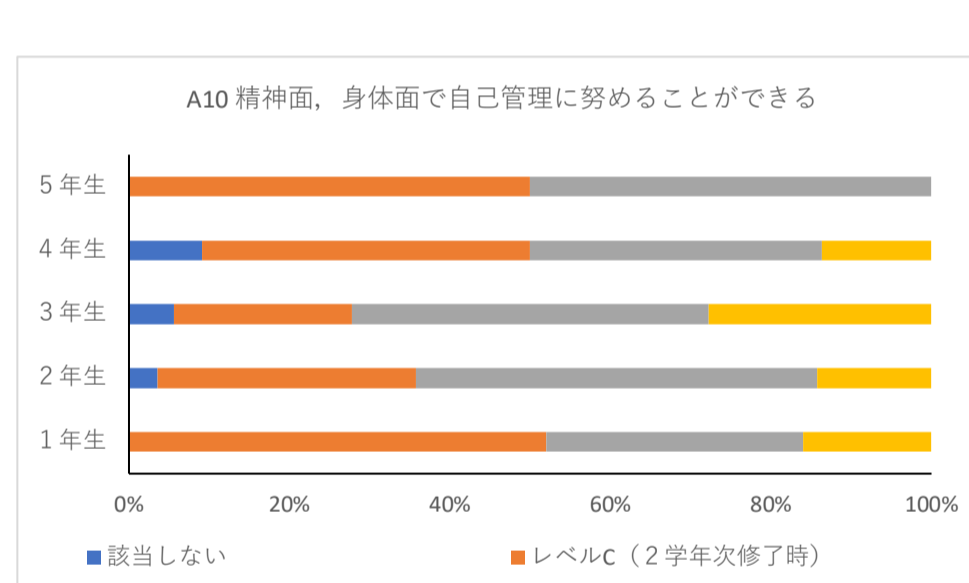
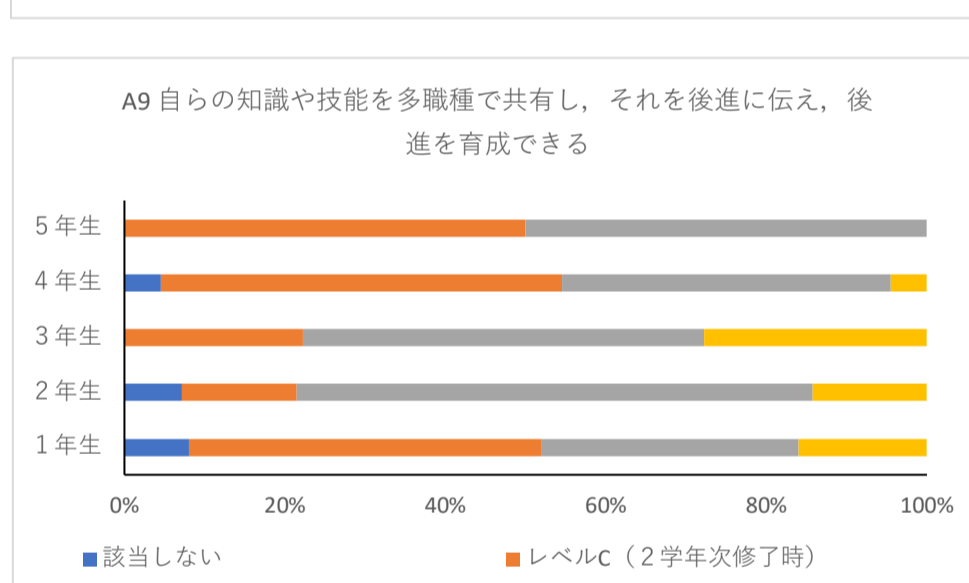
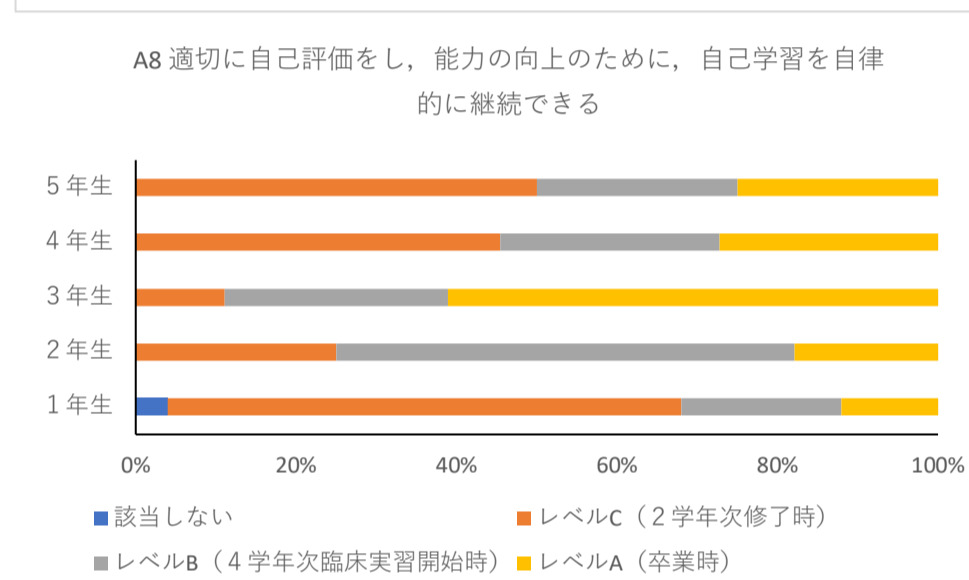
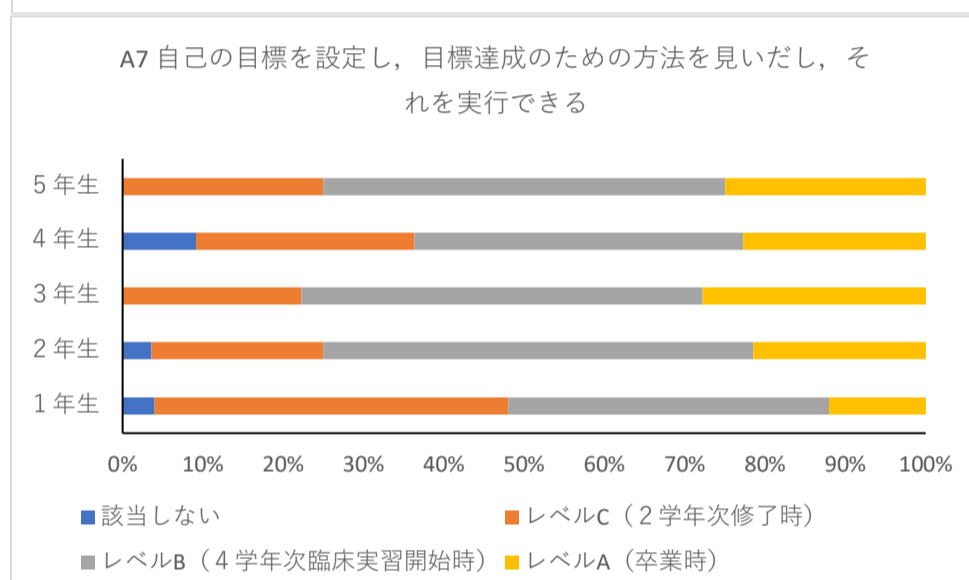
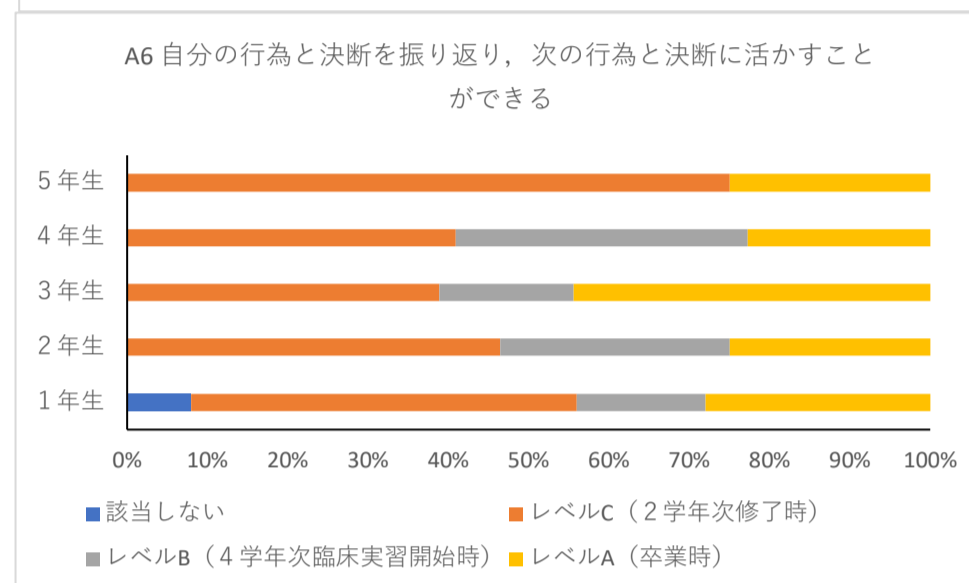
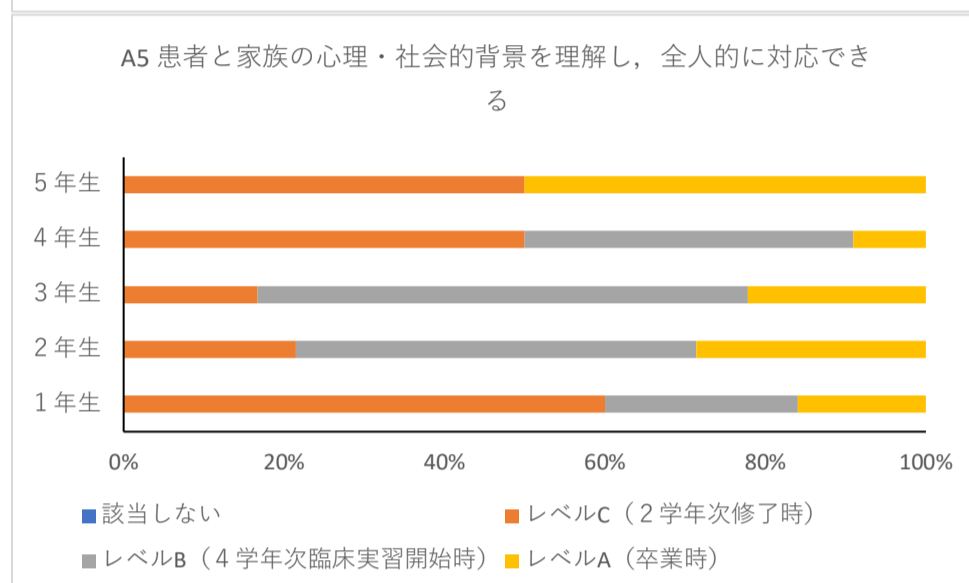
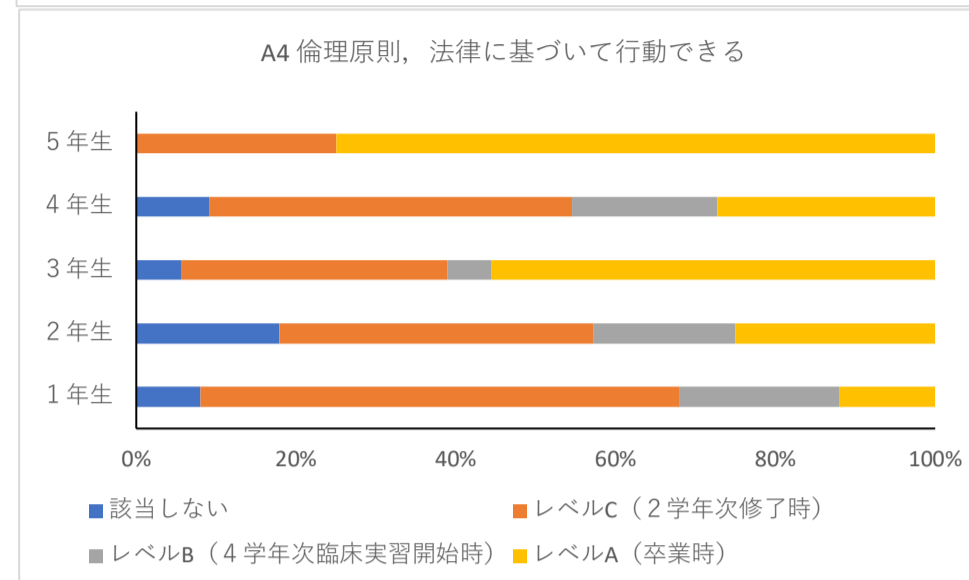
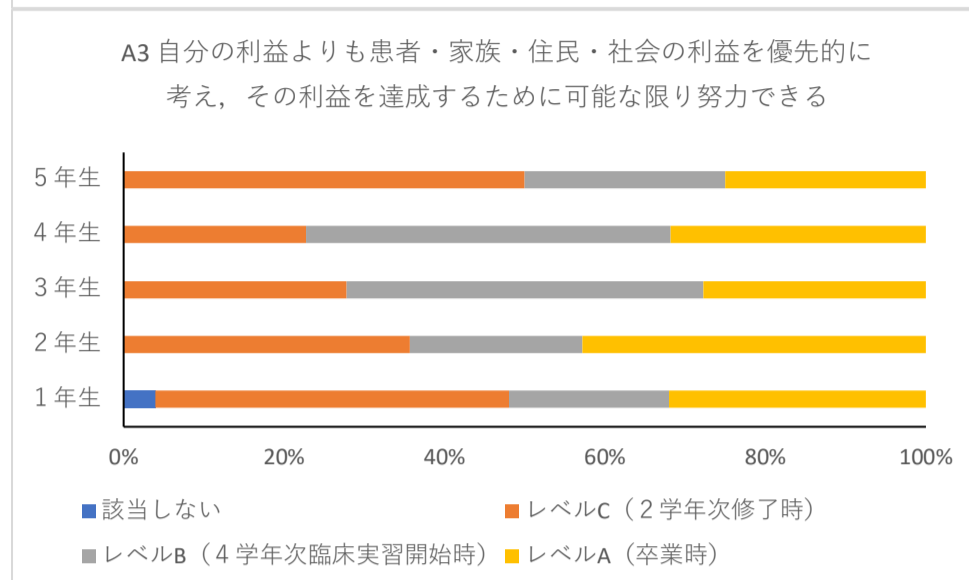
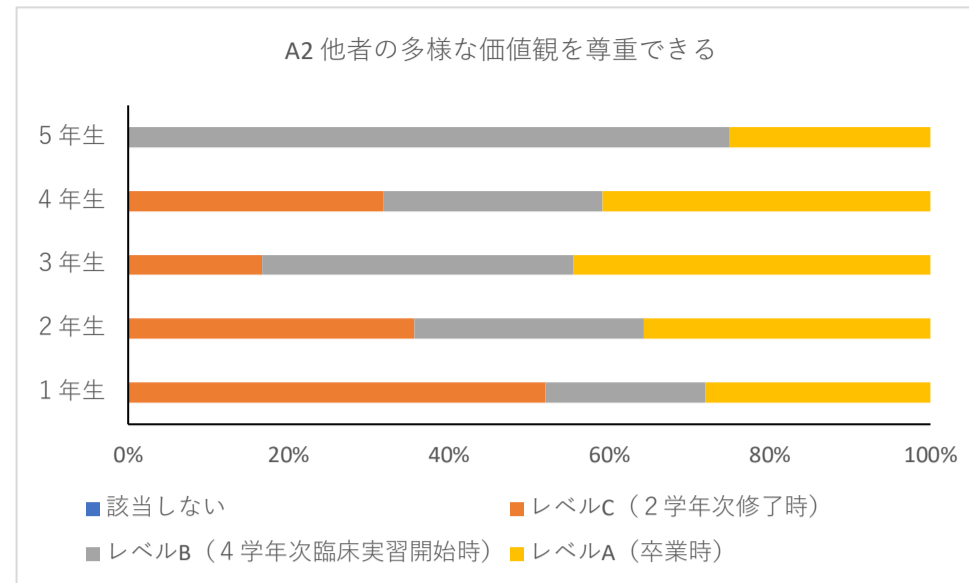
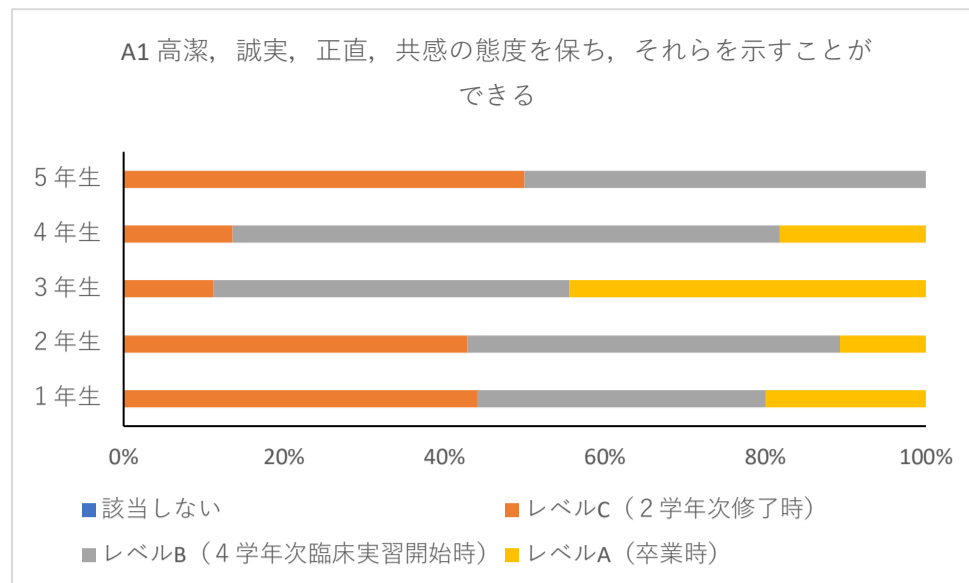
コンピテンシー・マイルストーン調査を各学年次で行い、特に、2年次、4年次で未達成割合が40%以上のものを抽出した。

2学年次においては、診療技能に関するマイルストーン項目において、未達成割合が多かった。4学年次においては、臨床実習開始前レベルで未達成割合がすべてのコンピテンシにおいて抽出された。臨床実習中において、これらのコンピテンシー・コンピテンシーに関して、到達度レベルを上げることが必須であり、今後の課題として抽出された。

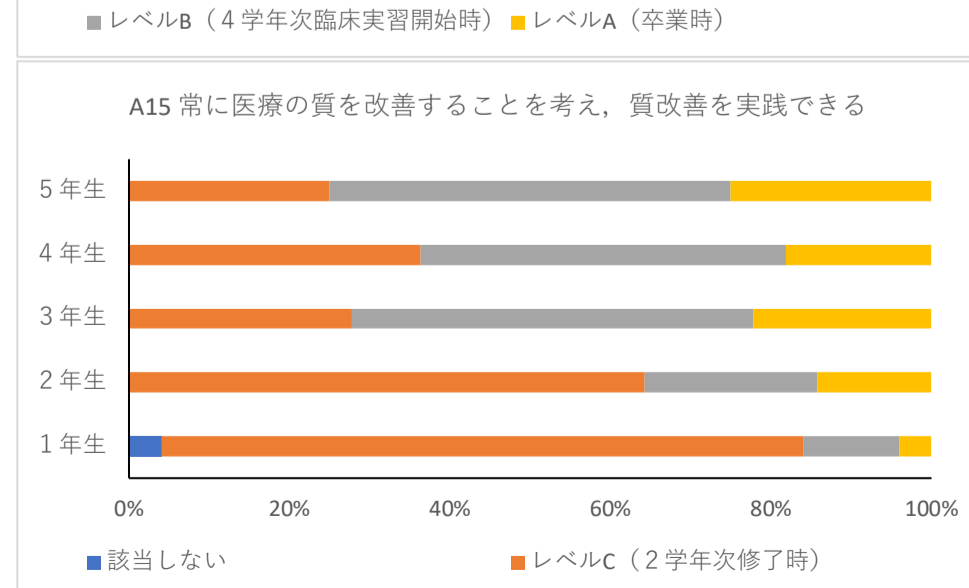
今回の調査では、ウェブでの回収率が低く、この調査は全体を反映していると言い難いため、来年度以降、さらに詳細を検討することが必要であると考えられる。

2020年度マイルストーン到達度

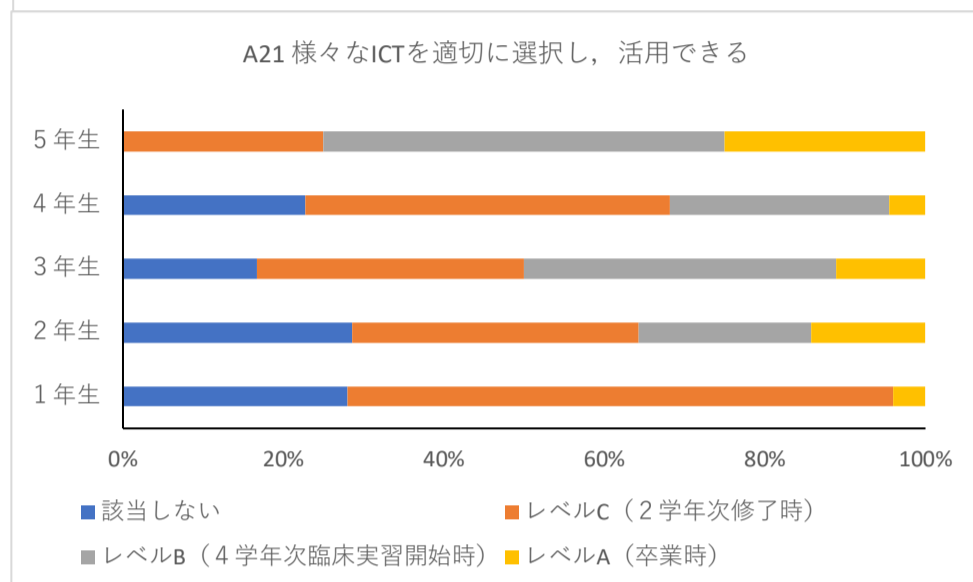
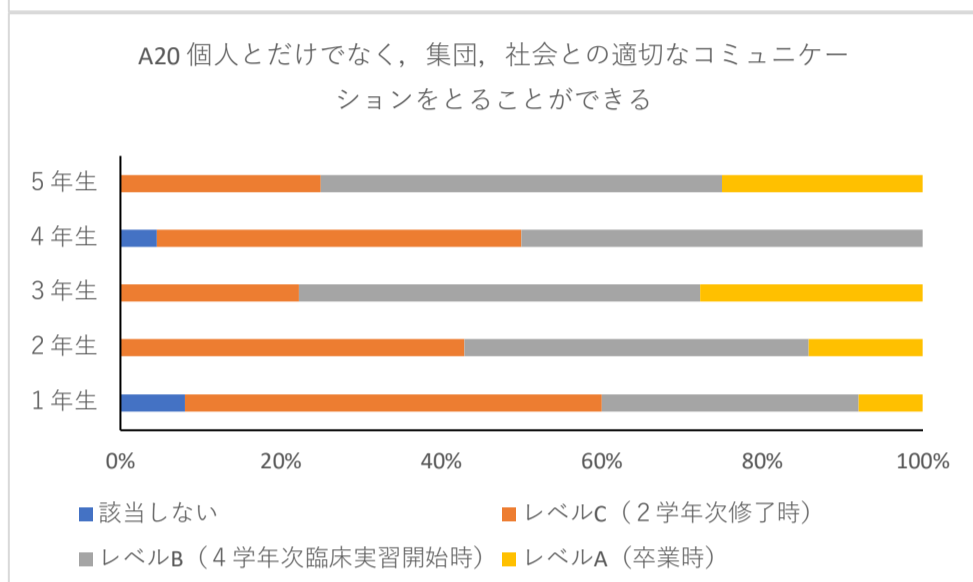
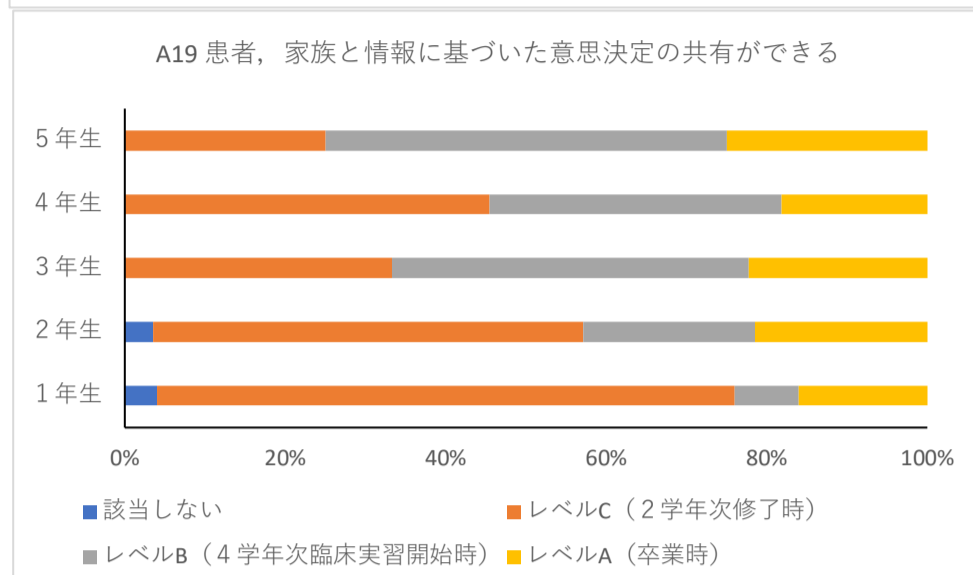
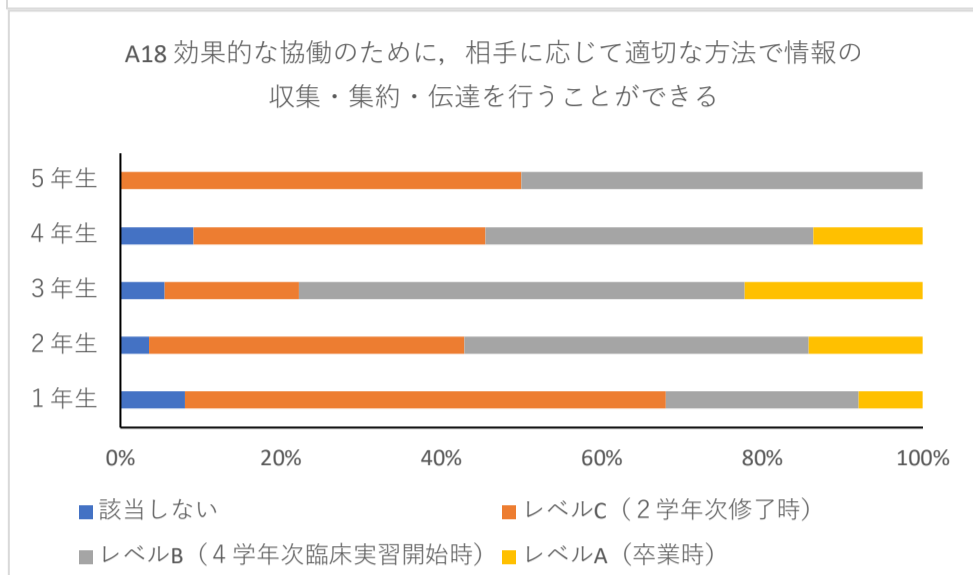
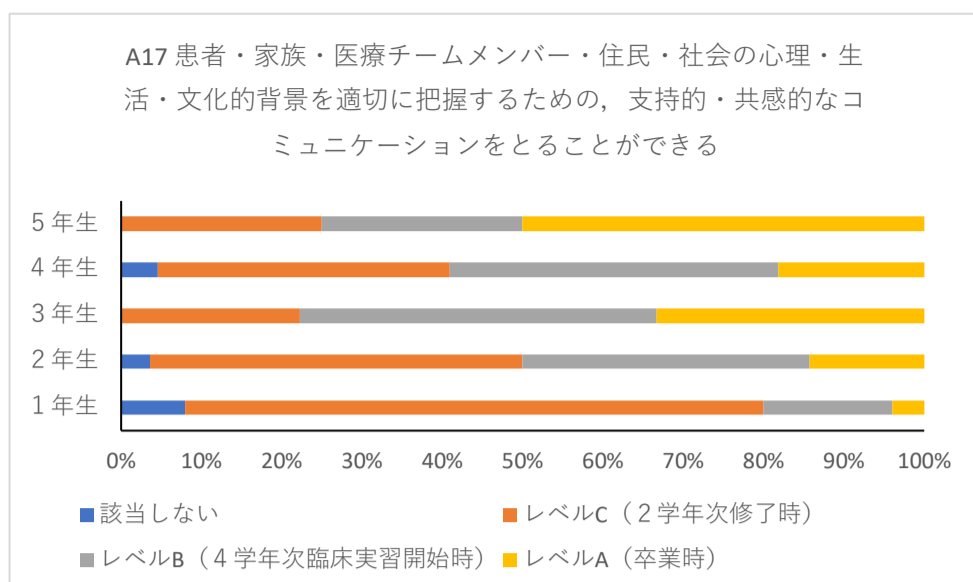
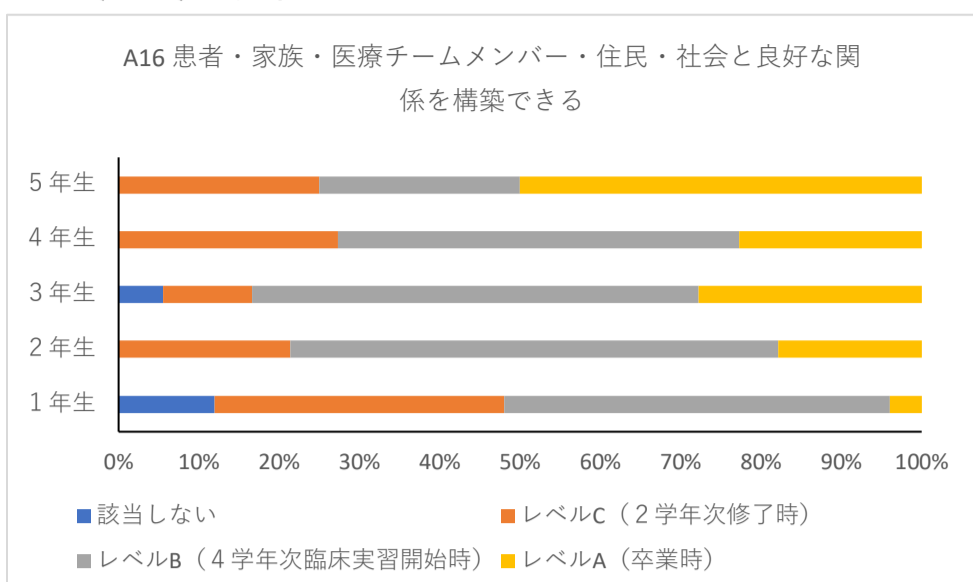
1.プロフェッショナリズム



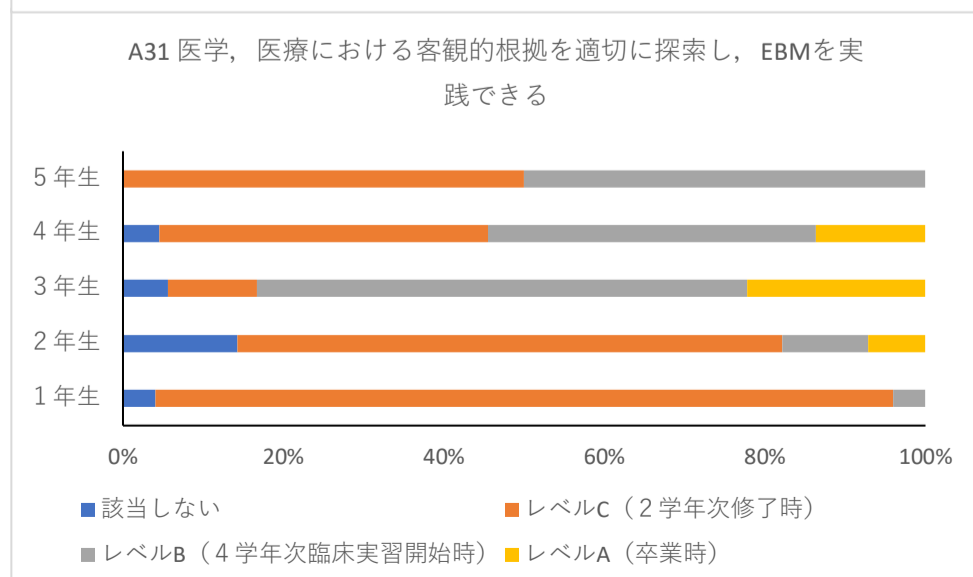
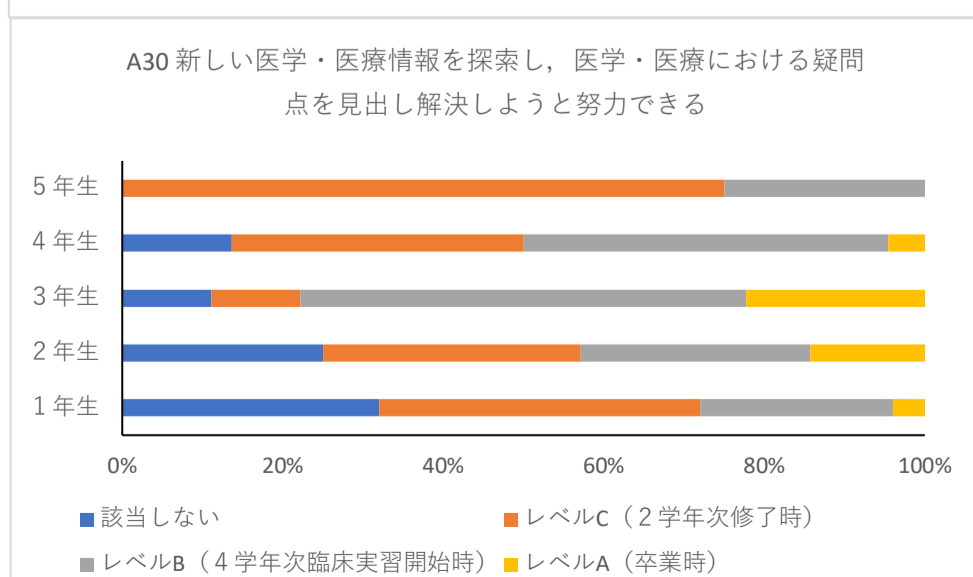
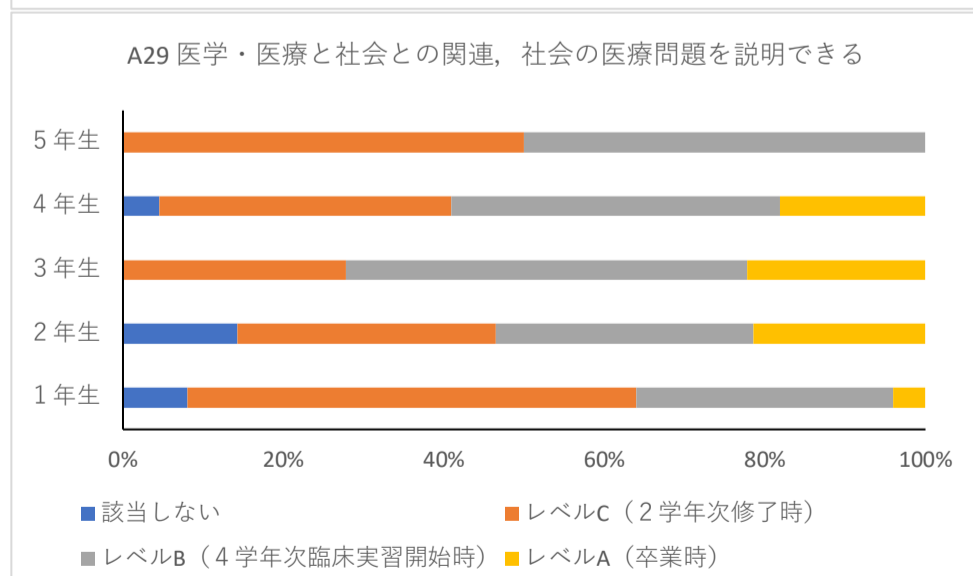
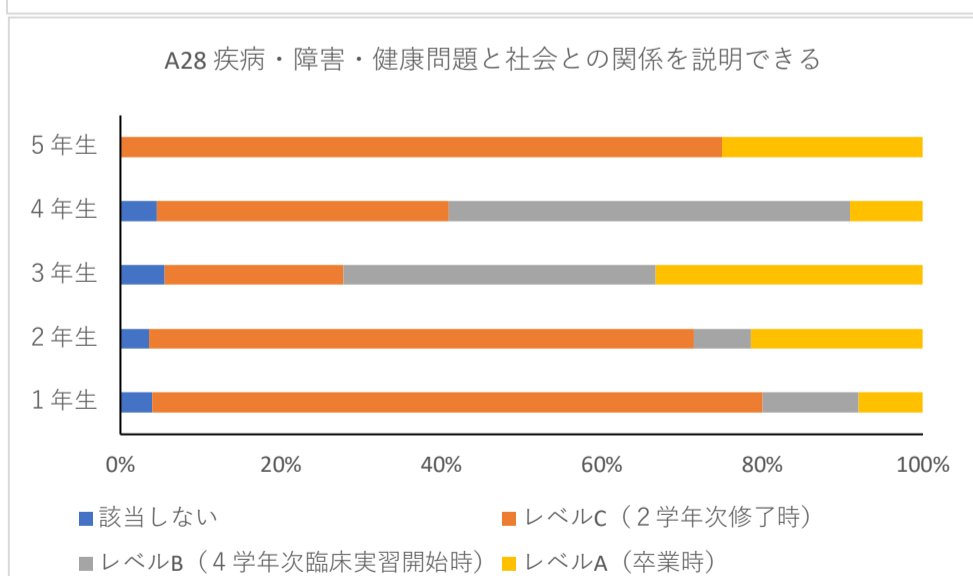
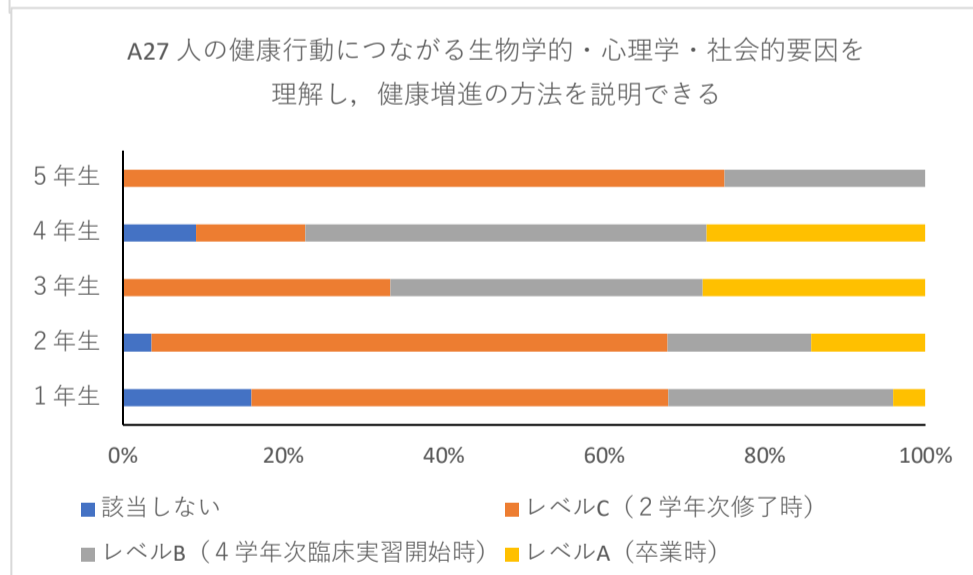
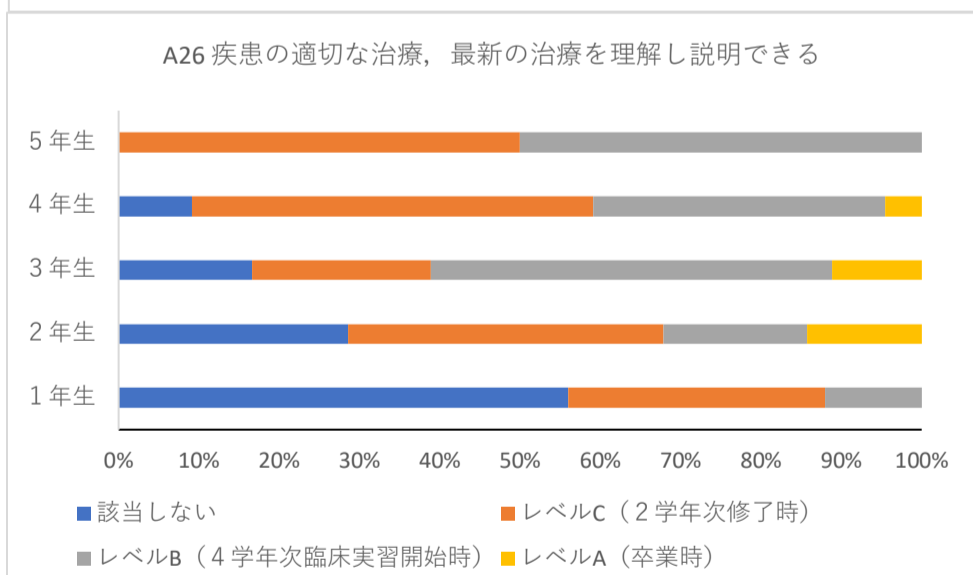
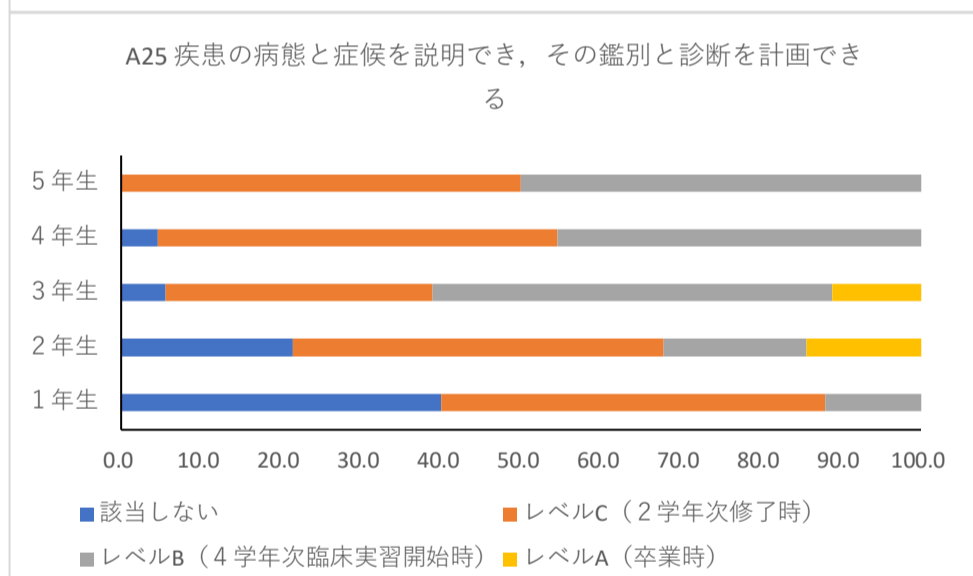
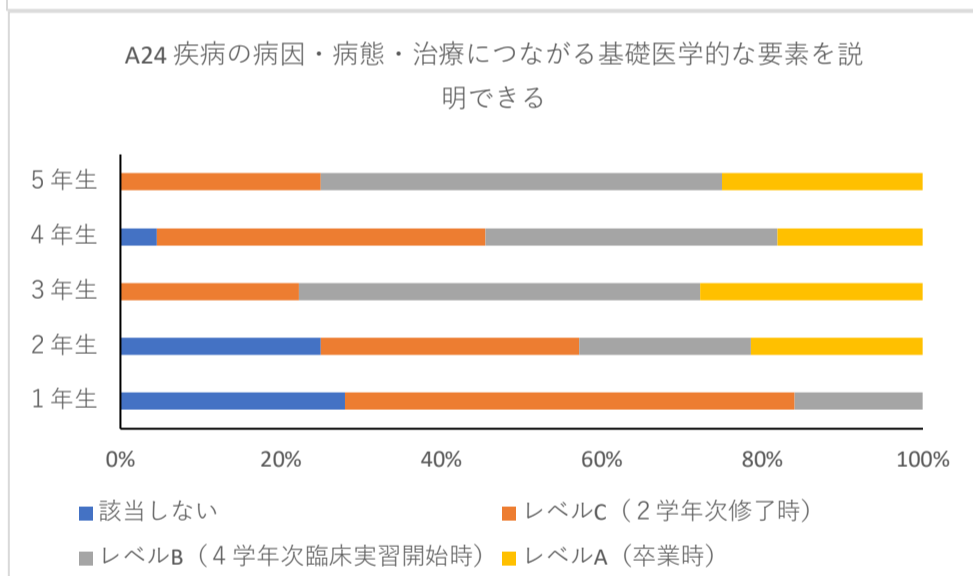
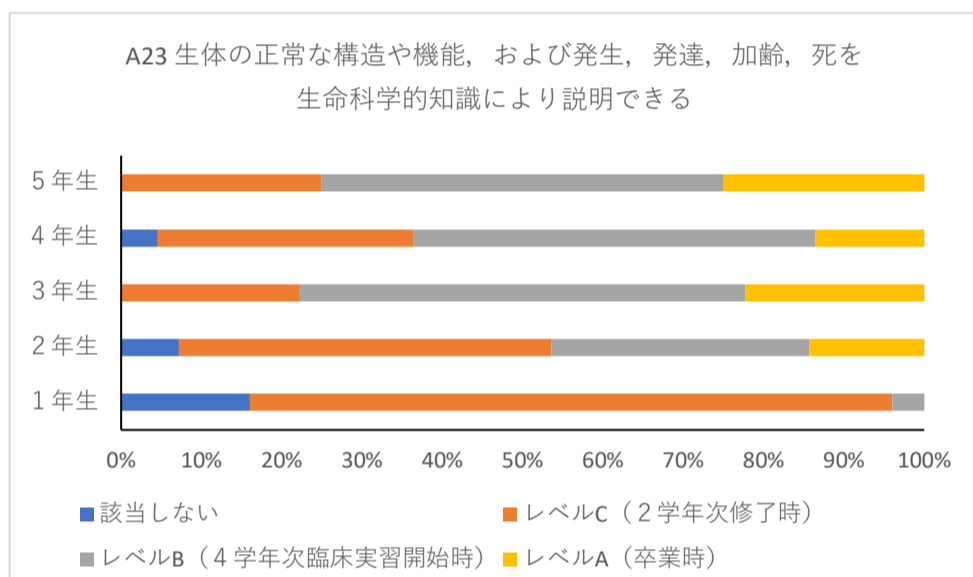
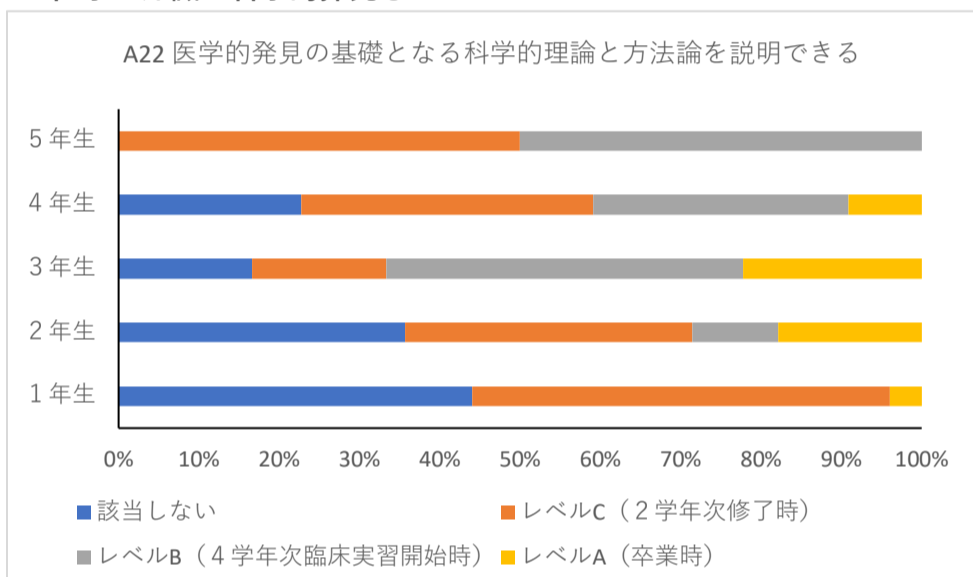
	回答者	学生数	回収率
1年生	25	128	19.5 %
2年生	28	122	23.0 %
3年生	18	115	15.7 %
4年生	22	119	18.5 %
5年生	4	108	3.7 %



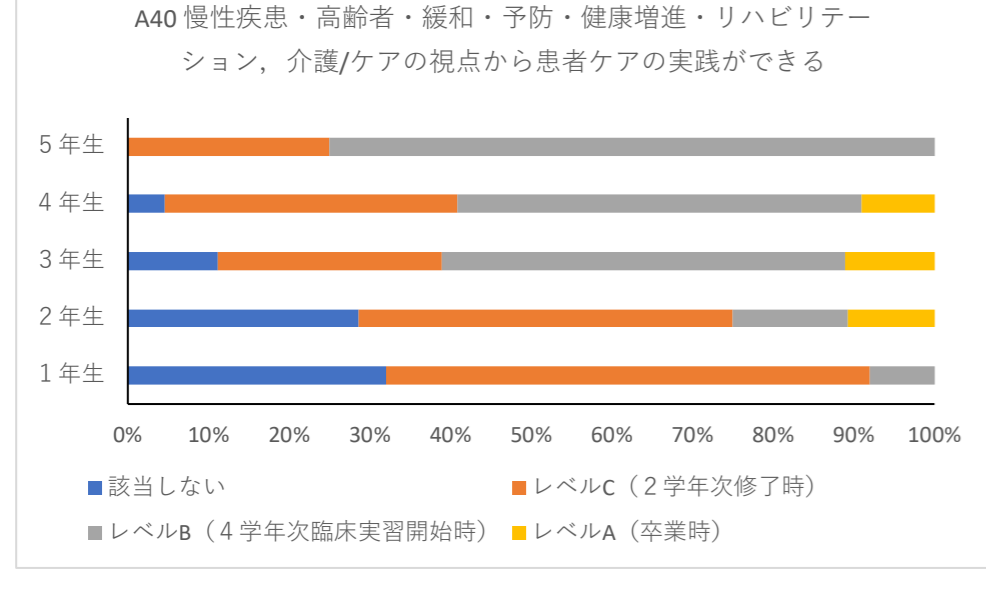
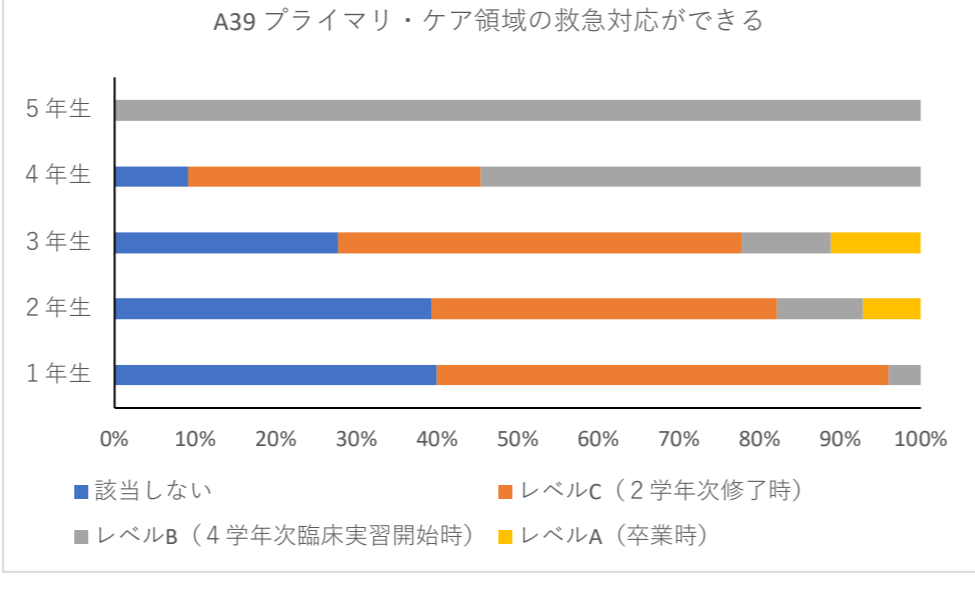
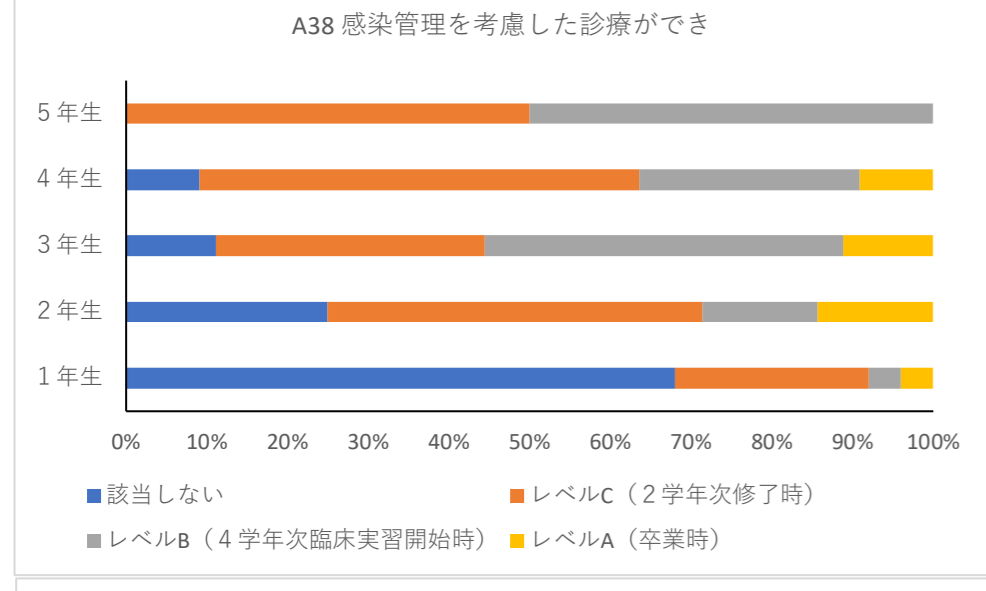
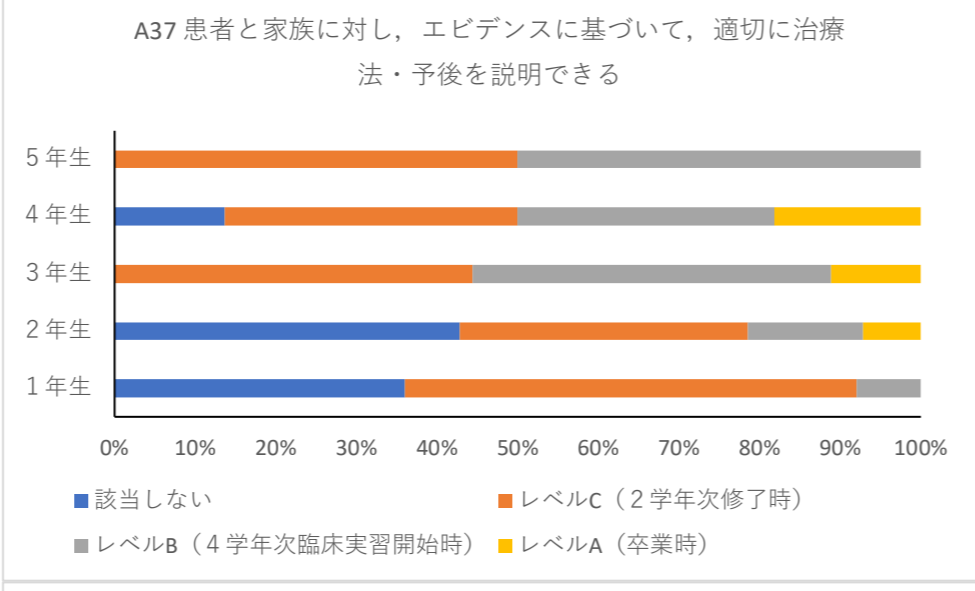
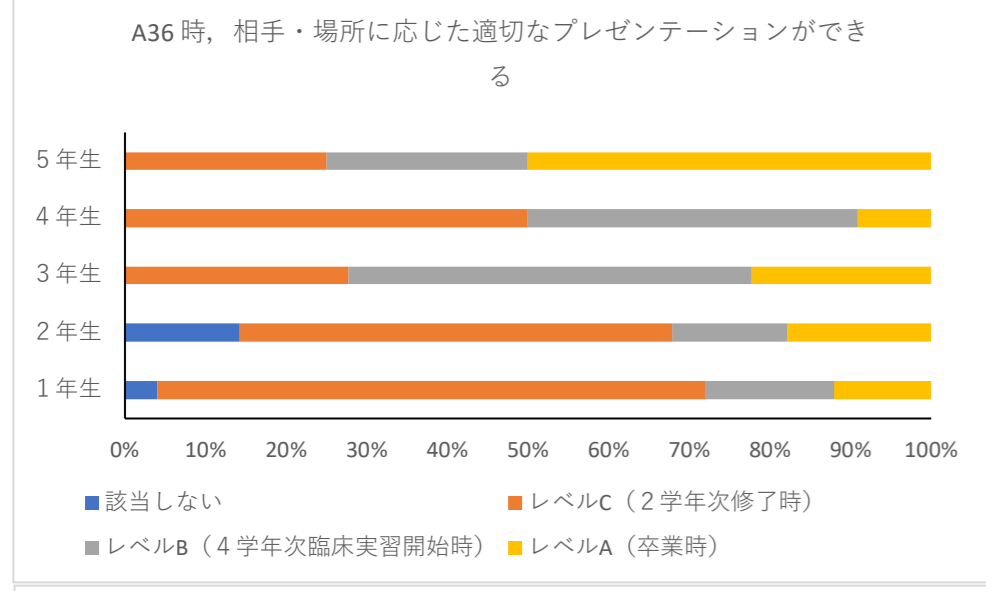
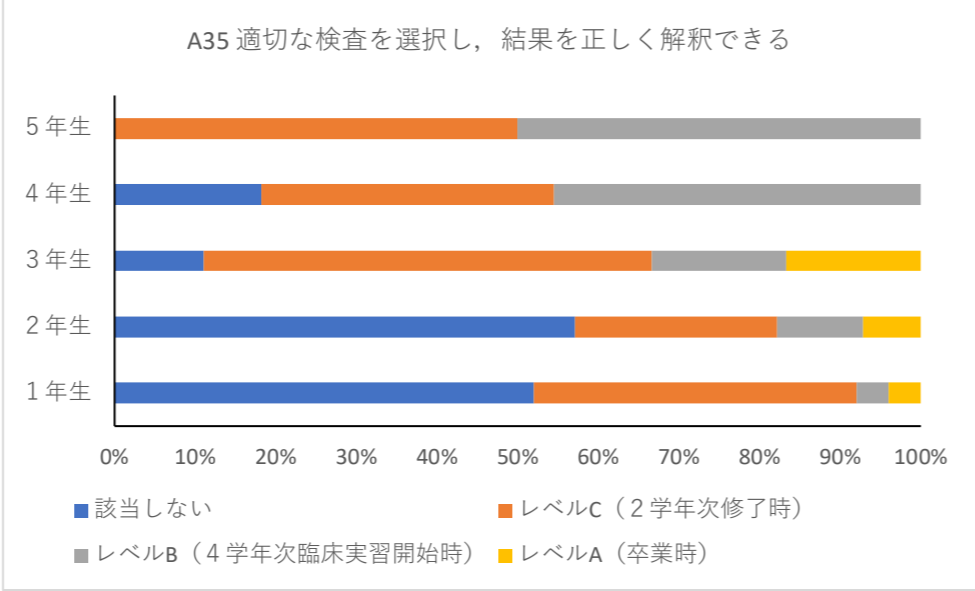
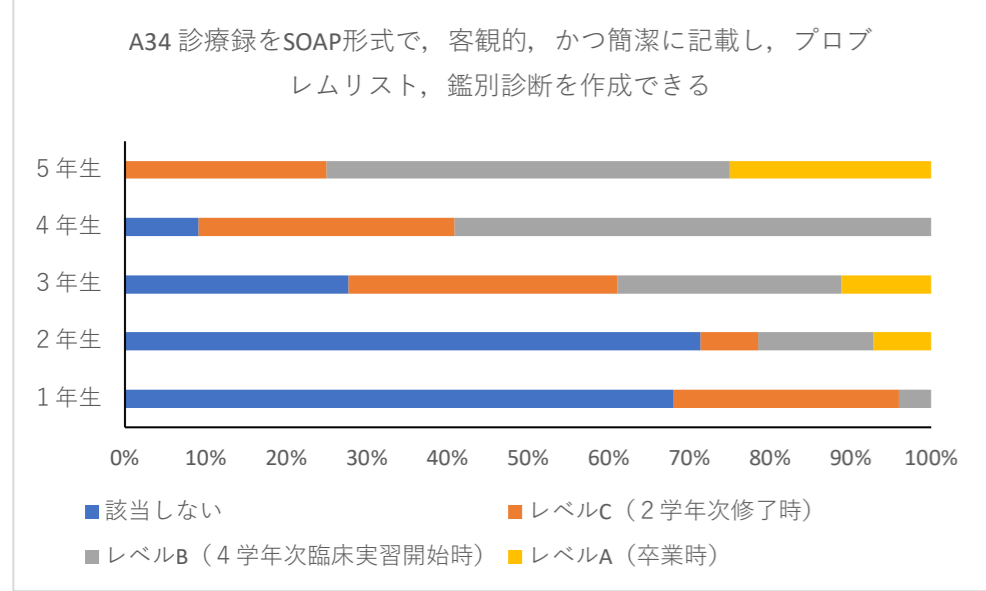
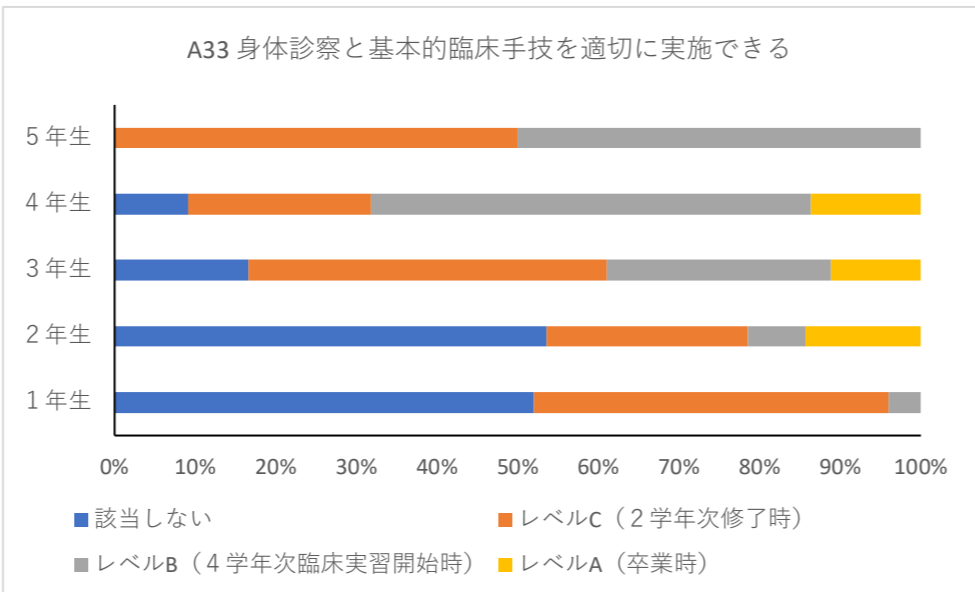
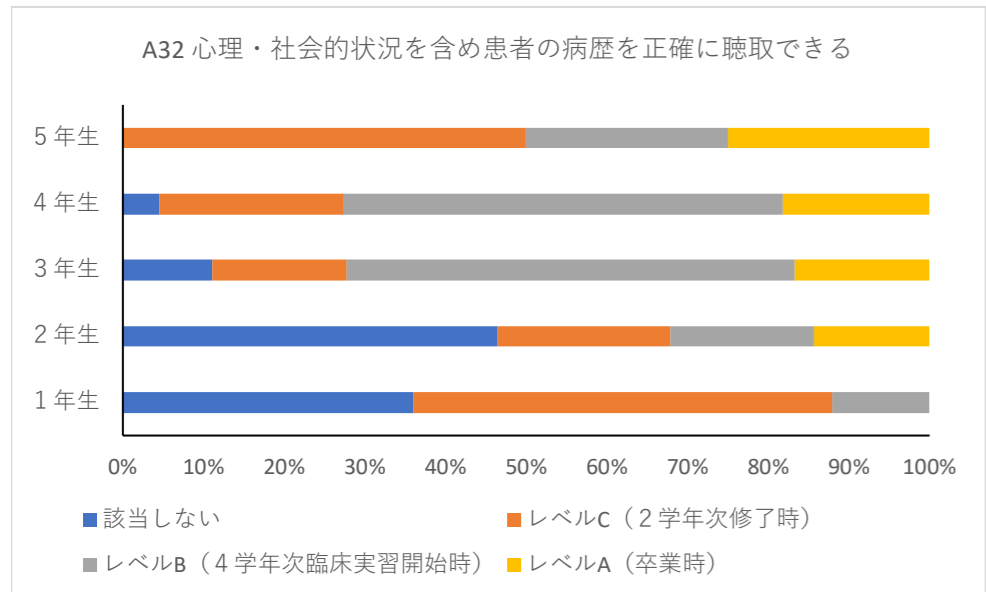
II. コミュニケーション



III. 医学の知識と科学的探究心



IV. 診察技能



V. 地域社会への貢献

